

令和 3 年度（2021 年度）第 1 回熊本市一般廃棄物処理基本計画策定委員会 議事録要旨

1 日時 令和 3 年（2021 年）7 月 2 日（金曜日）10 時 00 分から 11 時 40 分まで

2 場所 熊本市役所 議会棟 2 階 議運・理事会室

3 出席者 熊本市一般廃棄物処理基本計画策定委員会委員（8 名）

篠原 亮太 委員長

小野寺 武治 委員

岩佐 弘子 委員

宮園 由紀代 委員

濱田 麻里 委員

上野 誠実 委員

西原 治雄 委員

山田 幸一 委員

事務局（8 名）

三島 健一 環境局長

村上 慎一 資源循環部長

下錦田 英夫 廃棄物計画課長

千原 直樹 ごみ減量推進課長

後藤 滋 環境施設課長

緒方 宏行 浄化対策課長

菅本 康博 ごみ減量推進課事業ごみ対策室長

中村 勝 廃棄物計画課副課長

4 欠席者（1 名）

中田 晴彦 副委員長

5 次第

(1) 開会

環境局長あいさつ

委嘱状交付

委員自己紹介

事務局職員紹介等

委員長、副委員長選出

委員長あいさつ

(2) 議事

【議題】 熊本市一般廃棄物処理基本計画（ごみ処理基本計画）の検証について

【報告案件】 生活排水処理基本計画の検証について

(3) 閉会

6 配布資料

次第

資料 1 「熊本市一般廃棄物処理基本計画」の検証について

資料 2 「生活排水処理基本計画」の検証について

開会

【事務局挨拶】

三島環境局長挨拶

【委嘱状交付】

三島環境局長より委員を代表し篠原亮太委員に交付

【委員自己紹介】

各委員より自己紹介

【事務局紹介】

事務局の紹介

【配布資料の確認】

事務局より説明

【定足数報告】

事務局

熊本市一般廃棄物処理基本計画策定委員会運営要綱第6条第2項の規定により、本委員会の開催のための定足数を満たしていることを報告する。

【委員長選出】

事務局

議事に入る前に、本委員会運営要綱第4条第1項により、委員長を委員の皆様の推薦により決定していただきたいが、どなたか御意見を。

濱田 委員

篠原委員を推薦する。

委員

異議なし

事務局

異議なしということで濱田委員より推薦いただいた篠原委員に就任をお願いする。
(篠原委員、委員長席へ移動)

【篠原委員長挨拶】

皆様、御指名により、私が委員長を務めることになったので、よろしくお願いします。

ごみ問題、廃棄物問題は、今問題になっている地球温暖化、あるいは脱炭素社会の構築、そういった問題に非常に深く関与している。特に今までは、三島局長も言われたように、適正処理、リサイクルの効率化等々、当然していることにプラス加えて、効率よい処理、これから地球環境の問題を踏まえたうえで処理をしなければならない。

ごみ問題は、市民生活と深く関わっている。簡単で非常に分かりやすいが、実際は非常に難しい問題を抱えている。処理をすればいいということだけではなく、廃棄物をいかに資源にしていく、2050年までに、カーボンゼロにするよう、国、県は皆そういう方針に進んでいる。そういった中で、この廃棄物問題を、この熊本市で検討していくと、非常に重要な仕事であろうと思っている。私自身、熊本市民であり、是非とも、熊本を日本の市町村の中でナンバーワンにしたいと考えているので、皆さん御協力のほどよろしくお願いします。

廃棄物問題は、皆さんたくさんの御意見をお持ちだと思う。

会議の日数も非常に限られているので、ぜひとも、この会議の中で、十分な意見を出し、この廃棄物計画をすばらしいものにしたいと考えている。

【副委員長の選出】

事務局

本委員会運営要綱第4条第3項の規定により、篠原委員長に指名をお願いします。

篠原 委員長

今日は欠席ということだが、中田委員を、副委員長に指名したい。

中田先生は、熊本大学の先生をされており、海洋プラスチックに関しては、熊本の中では最も丹念に仕事をされている方。そういうことを考慮し、ぜひとも中田委員に副委員長をお願いしたいと考えている。いかがか。

事務局

篠原委員長が中田委員を指名されたので、中田委員に副委員長をお願いしたい。

なお、中田委員は、事前に副委員長に指名された場合の承諾はいただいていることを御案内申し上げる。

議事に入るが、本委員会運営要綱第6条第1項の規定により、委員長が議長となるので、篠原委員長に議長をお願いします。

議事

篠原 委員長

規則によって私が議長を務める。議題が幾つか用意されている。まずは、最初の議題である熊本市一般廃棄物処理基本計画（現計画）の検証について、事務局から説明をお願いする。事務局から説明し、そのあと皆さんから御意見をいただきたい。

下錦田 廃棄物計画課長

（資料１「熊本市一般廃棄物処理基本計画（現計画）」の検証について説明）

篠原 委員長

ただいまの報告に何か質問はあるか。見て分かるように、達成困難がずらっと並んでおり、本当にもともとこの目標がよかったのかという、思いがある。もともと高い目標だったのか。中には達成しそうな項目もあるが、これだけ達成困難となると、今度、相当、この計画を厳しくしないと、なかなか達成出来ないということになりそうである。皆さんのほうから何か御意見を。

西原 委員

市民１人１日当たりのごみ排出量は達成困難との説明であり、民間の生ごみ施設がなくなったということであったが、影響を受けたのは事業系だけだと思う。Ｒ１、Ｒ２が増えたという話があったが、市民１人１日当たりのごみ排出量というのは、どういう計算方法か。

下錦田 廃棄物計画課長

お尋ねの【成果指標１】市民１人１日当たりのごみ排出量については、家庭ごみだけではなく、事業系も含めたところで、１人１日当たりの排出量を出している。そのため事業ごみの関連性も出てくる。

ここは１１ページの【成果指標４】事業ごみの処理量とも関連し、単純に、市民１人当たりがどのように頑張っているかというのを見るのは、【成果指標２】家庭ごみの処理量のほうである。

篠原 委員長

全国の同計画の指標を見ても、この１人当たりの処理量は、家庭ごみだけでなく事業系のごみを入れて計算してある。そのため、事業主も、努力しないと１人当たりのごみ排出量は下らない。市民だけでは難しい。事業所も市民の一つであり、一緒になって下げていくことが必要。大体日本で低いところは８２０ｇや８００数十ｇ。日本で５番内に入ったところはみんな事業系も入って８００数十ｇが大体普通である。

山田 委員

人口と世帯数の関係について。人口は減ってもおらず横ばいだが、世帯数が相当増えている。家庭ごみを出す場合は、5人家族であろうが1人であろうが、出すのは一つである。ということは世帯数が増えればそれだけごみは、数的には増えそうだが、そういったところで1人当たりのごみ排出量を指標とすることに疑問を感じた。世帯数が増えれば自然とそれだけごみも余計出すため袋も数が増え、量は増えると思う。そのため、そういった世帯数に応じた目標かあるいは対策を、検討したほうがいいと感じた。

下錦田 廃棄物計画課長

山田委員が言われたとおり、世帯数が増えれば分母が増えるので、ごみ排出量が増えると推察している。

これは例えば、高齢化の進展などで、世帯数が増えるなども、このグラフでは見て取れる。成果指標にその世帯数という概念を入れるかどうか、検討させていただきたい。

宮園 委員

達成困難ということではあったが、今回、コロナウイルスにより休校や、ステイホームが進んだという部分が非常に大きいだろうと思う。この指標では熊本市しか分からないので、同じような中核都市でステイホームしたときにどれぐらい影響があったのか、そこの比較からすると、もしかしたら熊本市は頑張っているかもしれないし、逆に頑張っていないかもしれない、そういった情報がもしあれば、分かりやすいと思う。

下錦田 廃棄物計画課長

御提案のとおり、今後の資料として、他の政令市の動向なども御提供させていただきたい。

篠原 委員長

家庭ごみのリサイクル率が今、あまり上がってない。上昇傾向にあるが、目標に達していない。現在、家庭ごみの中に25%、リサイクルできるものが含まれているということは、5年前とか10年前、ここ最近など、どういう状況か。

下錦田 廃棄物計画課長

5ページにある組成分析に基づいて出しており、その図は、長い年数ではなく、直近の昨年度の組成分析の結果から算出した数字である。

三島 環境局長

私は以前、組成分析をしていたが、これは環境工場に燃やすごみとして出されるごみを、サ

ンプル調査するものである。職員がごみ袋を開けて、中身を見て分別する。リサイクルできるもの、通常の燃やすものもあるが、もちろん圧倒的に生ごみが多い。生ごみは当然焼却するのでそれはそれで問題ないが、私がやっていた１０年ぐらい前と大体比率は、変わらない。１０年前は、プラが相当混じっていたが、今はリサイクルできるようになっている。以前はプラが適正処理だったのが今不適正処理のほうに混じっている。比率としては、以前からあまり変わらないというのが私のこの表を見た印象。まだまだプラは汚れているものはどうしても、そのまま焼却のほうに回るものがあるのは若干やむを得ないところがあるかもしれないが、紙類と資源物、ビン・カン類がまだまだ一部混じっているというのが今の現状。

篠原 委員長

その辺が今後のキーになりそう。もう少し市民の自覚というか、市民への啓発が必要ではないかと。初めて聞いたと感ずる方も多いと思う。ぜひともそういうところを進めていくと。

宮園 委員

個人情報が入っている紙について、住所とか名前とかあとは子供のテストの点数とか、どうしても、自分で切って燃やすごみに入れざるを得ないので、何かやっぱり守れる仕組みでリサイクルできるといい。私自身も、はさみを入れて燃やすごみに出していて、反省している。

西原 委員

熊本市のごみをリサイクルしている、熊本市リサイクル事業センターの代表、社長をやっているが、昔からごみを携わっている中で、収集・運搬する中で、４０～５０年前からすると、一般の市民の人は分別を相当、確実にに行っていると思う。昔、不燃物といったら、何もかも出していた。地域によっては、ごみ置場がものすごく汚かった部分があり、今は市民の方は相当分別に協力している。その中で、１人当たりのごみの排出量は、これは事業所も入っていると言われたが、事業所のごみを減らせれば１人当たりのごみの排出量は減るということならば、その事業所にそういう啓発は、どういうふうに行って、そして事業所にどこまでを求めているのか。

菅本 事業ごみ対策室長

市の要綱上で多量排出事業者を設けており、それが主に事業所の従業員数が２０名以上。今のところ、市で把握している多量排出事業者が１０００事業所ほどあり、リサイクル計画書の提出や、実績の報告を求めている。そのほか職員のほうが立入り調査に行き、きちんと分別が出来ているか、契約が出来ているかの指導等を、年に大体４００件程度のペースで行っている。ただ、御指摘のとおり分別が不十分であるケースなどもあるため、これまでも立入調査は行っているが、さらにきちんと強化した上で、本当はごみではないのに、ごみに回っているものを、減らしていかなければいけないと感じている。

岩佐 委員

見学に来た子供たちに工場を案内するときに、家庭ごみは、燃やすごみのブルーの袋に入っているので、わかりやすく、事業ごみは、普通の袋なので、とても目立つ。その中に、大型のトラックが来て、プラスチックやペットボトルを捨てる様が見える。もちろん、汚れていてリサイクルが出来ないので焼却という部分は分かるが、子どもたちが家庭で、小さなごみを破って分別している中で、工場を見学したら、プラスチックなどの事業ごみが2トン車などで一気に排出されている。それを見て子どもたちは「いいと？」と言っている。そのため、事業ごみも分別や、家庭の1人一人が行っているような意識付けができるよう細かく指導してほしい。

千原 ごみ減量推進課長

先ほど、事業ごみ対策室のほうからもあったとおり多量排出事業者に対しては、今いただいた御意見も踏まえて、立入りの際に、啓発をしたいと思う。それから、中心市街地のごみ連絡対策会議を設置しており、市内中心のビルのオーナーや、商店街の代表の方など、廃棄物業者も含めてメンバーに入っているが、今、おっしゃったような御意見も踏まえて、是非、今まで以上に啓発を進めていきたい。

濱田 委員

事業所も、代表として取り組んでいることをお話しさせていただきたい。事業所の中で一番多く出るのが紙。紙ごみをいかに減らすかということを社内で取り組んでいる。ファクスも紙で出さないで、全部データで見てデータで処理をする。社内で今までは全部紙で報告をしたものを、データで報告をするという形にし、なるべくプリントアウトしない、紙を出さないということにとっても注力をしている。市からいろんな案内の文書が来るが、それも、お手紙で来ないでメールで来たら、その処分も助かる。取引先の業者さんの請求書も全部データでいただくように、お願いしたりしている。まず、紙ごみを出さない、ごみを出さないための協力を、いろんなところから、小さなところから発信していく。そういうこと、そういう会社をたくさんつくっていく、啓発していく、という形を、市の中で、啓蒙していただきたい。

篠原 委員長

そういうペーパーレスなど新たな取組や、ごみを減らしていく地道な活動が市全体のごみを減らすということにつながっていくと思う。

それともう一つ、さきほど個人情報の件をお話いただいたが、個人情報はどうしてもごみの中にカットして破って入れている。この問題は何かきちんとした解決方法を行政は何か考えているか。機密文書の処理となると大々的になるが。

下 錦田 廃棄物計画課長

例えば地域などに出向いて、いろんなごみ出しルールの説明をするときにもそういった話が出る。マジックで隠したいところを黒塗りして出す、などのお話はさせていただいている。

岩 佐 委員

私どもは企業なので、もちろん個人情報が流出すると大変なことになるので、個人情報が入っている書類に関しては、1 ところにまとめて、1 か月に 1 回くらい溶解処理をしている。

篠 原 委員長

そういう工夫をして、まとめて溶解処理ということも出来るので、どうすればいいかという指導というか情報を、企業のほうにもどんどん流して行って、個人情報を守りながらリサイクルを進めるという方法を考えていく必要がある。

上 野 委員

私は収集運搬の事業者なので、先ほどの説明で、事業系のごみはかなり増えており、事業所数が増え続ける資料を提示されたが、この中で、事業活動を行われてない割には、なぜ数字が伸びたのかという疑問が一つ。業者が出す量は大小あるが、コロナ禍でほとんどの中心街は、1 年半以上、休業状態に追い込まれているのに、これがどうして従業者数が増えてごみが増えるのかという疑問があった。

篠 原 委員長

コロナ禍では事業系のごみが減ると思われるが、実際、増えているというところについて説明を。

下 錦田 廃棄物計画課長

11 ページの 1 番上段に事業ごみの処理量の棒グラフがある。上野委員からお話があったとおり確かにこの中で事業ごみは減っている。例えば、令和元年度、こちらの数字と、令和 2 年度の数字を比べると、コロナ禍の影響を受けた令和 2 年度のほうはかなり減っている。それでも、目標値にはちょっと乖離しているという状況。

小 野 寺 委員

熊大の近くにある町内だが、町民が総勢 500 人に対して、学生が 1000 人という状況の町内。ほとんどの学生はルールを守るが、ルール違反もいる。燃えるごみの処理日は、道のあちらこちらでカラスが食い散らかしたのが散乱する状況をしょっちゅう見ている。以前は町内と熊大の学生のサークルとが一緒になって取り組んで、学生さんも一生懸命やって

くれたが、卒業していかれるというのもあって、なかなか定着しないというのが現状。先ほど岩佐委員にお聞きした、焼却場を見学して、嫌な思いをした小学生が大学生になって、なかなかルールが守れない子が結構いると思われる。今は熊大の学生支援課というところに、違反ごみがあるときには、お願いして引取りに来てもらっている。そこは緊密に連絡をとっており、今では、違反ごみを出した学生を呼んで、売店で指定袋を買ってきて、目の前で分別するというところまで指導していると聞いている。しかし、外国の方も結構多くなり、ルールがなかなかわからないということも考えられる。市が出した、6か国語ぐらいの案内があった。あれは本当に助かる。学生の半分ぐらいはネットを見ながら今日は何を出す日と、知っているようだ。また、プラスチックならば何でもいいという出し方をする学生も結構いる。そういう分別関係の啓発がまだまだ少ないと思う。収集している市の北部クリーンセンターに1度、インパクトのあるポスターはありませんかと尋ねた。1番効果があるのは小学生ぐらいが書いたポスターがいいということもお聞きしたら、それはないと。そういう、視覚に訴えるような、ポスターづくりも、出来たらお願いしたい。

篠原 委員長

啓発は、継続してやるということが重要。どんどん人口の入れ替わりが起こっているので、熊本市管内でも相当な人の移動があるので、啓発は継続的にずっと根気よく続けていかないといけない。行政としては大変だろうが継続してとにかくしつこく、やっていく。特に黒髪地区も、啓発し続けないと、卒業生がどんどん出ていく。県立大の近くの帯山地区もそうだが、しょっちゅう近所の自治会からクレームがきて、いつも、事務局が頭下げているが、やはり継続は力なりで啓発を長く続けていく必要がある。地球温暖化の手前の話だが、リサイクルの前に、適正処理を進めていくということが大事。本当はその先をどうするかというのが大事なところだが、まだまだそこまで至ってない。ごみをとにかく減らしていくためには、そういう適正処理をやっていくということが大事。とにかくリサイクルエネルギー、あるいは資源に変えないと、CO₂を減らないといけないということは間違いないので、これを何とかやっていく。いろんな面でやっていくしかないと思う。

岩佐 委員

西部環境工場も東部もそうだが、焼却された後も山元還元でちゃんとリサイクルされたり、結局燃料になったり肥料になったり、し尿のほうもそうだが、リサイクルされている。それなのに、カレンダーは「ごみカレンダー」である。リサイクルや、持続可能な社会にしていくなめには、「ごみカレンダー」ではなくて、「資源カレンダー」にするべき。資源ありきで、どうしても駄目だったらごみになる。子供たちが「ごみカレンダー」というのは、リサイクルごみもリユースごみも全部ひっくるめてごみ。そうではなくて、熊本市民がカレンダー見たときに、今日はごみを出すと言ったときには、それは資源カレンダーである。そのため、表紙の「ごみ」を外して、「資源カレンダー」に変えても、いいと思う。

山田 委員

私の地域では、高齢化が進んでおり、65歳以上の方が45%で、もうちょっといくと、2人に1人は高齢者になる。熊本市でもトップクラスの高齢化が進んでいる地域だが、そこにごみカレンダーをお持ちするが、見てもわからないと言われる。だからできれば、お年寄り用の簡単なチラシみたいな形でもいいので、例えば、1週間で今日は生ごみ、今日はプラスチック、今日はペットボトル。それぐらいの簡単なほうが、高齢になるとわかりやすい。よかったら、全世帯にごみカレンダーをお配りするよりも、高齢宅にはそういったわかりやすいものをつくれば、なお、ルールが守れると思う。

それからもう一つ、これは余談だが、8ページの基本方針の中で、ごみステーション管理支援補助制度や、ごみステーション施設整備補助金制度と書いてあるが、例えば私の自治会は、2キロ四方にステーションが15か所ある。片や200メートル四方にステーションが2か所しかない自治会もある。20世帯もない自治会も同じ4万5000円。なぜかという、市の補助金の規定が200世帯で切っている。だから、200世帯以下は、10世帯であろうが、199世帯であろうが、ごみステーションが何か所あろうが4万5000円。また私のところは、ごみステーションが15か所あり相当広く、4万5000円では足りない、町内会費の中から補填をして、対策してルール違反やいろんなことをやっている。今は相当ルールを守るようになったが、片や、200メートルのところは、一人あたり徴収しなくても個別に指導ができる。基準はもう変えられないと思うが、何かそういった対策を打っていただくと町内としてもやりやすいと思う。

今、自治会というのはまちづくりセンターと連携をとっており、いろんな相談乗ってもらえるので、以前よりもいろんなことがスムーズに運べるようになった。これはもう本当に前進。そういったところと連携して、ごみの関係についてももっと、いい方向に進めるように、連携を私たちもっていきたいと思っているので、市も是非連携をとってほしいと思う。

篠原 委員長

高齢者は高齢者用というきめの細かい対応を。それから、世帯数によって補助金が200世帯を上限にいろいろ変わってくると。そういうきめ細かい行政対応しないと、効果あるものは出来ないということになるので、これも、行政は大変な計画だと思うが、そうしないとごみはなかなか減らないと、資源にならないということなので、何とか頑張ってこの計画の中に、少しでも入るようなのは入れてもらうということで進めていっていただきたい。

私のほうから提案だが、13ページの目指す姿ということで、キーワードを出してある。これを何とか組合せて、今度新しい現次期計画の目標と掲げる姿を、皆さんから提案していただきたい。今日はなかなか難しいと思うが。キーワードの中に、私はこれを絶対に優先すべきだというのがあったら、まずは今日提案してもらって、次回にそれをうまく事務局のほうで組合せてつくってもらおう。これは絶対外せないというものがあれば、何か幾つか案を出

してもらおうと。みんな外せないが。

岩佐 委員

今は、SDG s だと思う。SDG s の中に持続可能だったり、循環型社会だったり、教育も含めて全部SDG s の中に入るので、まず、この辺。今、環境省も挙げてやってるので。

篠原 委員長

SDG s は、私の環境センターも一生懸命やっているが、やっぱりSDG s という言葉が、なかなかまだ普及していない。

岩佐 委員

そのため普及させなければ。

篠原 委員長

SDG s だけ出してしまうと難しいので、何かこう補完するような感じで。

岩佐 委員

17 項目の中で主要なところを、ピックアップして、詳しくわかりやすく。

篠原 委員長

目指す姿に「SDG s を実現する」と言いつくったとしても、なかなか市民は、環境に興味ない人には、理解してもらえない。私も講演しても、よくわからないと言われる。

岩佐 委員

循環型社会と言ってもなかなかわかりづらい。

篠原 委員長

今日は一つ、SDG s は上がった。これは候補に入れてもらうということで、ほかに脱炭素社会などいろいろあるが。

宮園 委員

脱炭素社会は、やっぱり暑いとか災害が多いとかいうほうがびんとくる。確かに地球温暖化と災害の関連を専門的にやれば、もしかしたら違うかもしれないが、一般的なイメージとしては、こんなに二酸化炭素が多いから熱帯みたいな気候になっているとかいうほうがイメージが付きやすい。

小野寺 委員

少し何か抽象的かもしれないが、地球を救おうとか。先ほどあった地球はもう危機的だというようなショッキングなキーワードも。

篠原 委員長

そういうキャッチフレーズというか、市民にぱっと分かるような、何かを決めていくという、この姿はなかなか提示されてもそれは本当に、速やかに市民が受入れてくれるかという問題があるかと思う。

濱田 委員

SDGs はすごく力を入れて社内的にもずっと呼びかけているような言葉なので、私の中では、SDGs は結構身近なものになってきているが、いろいろSDGs に関して調べたりすると、広過ぎてつかみどころがない。熊本市のほうで熊本市独自のSDGs を掲げられてそれに合うようにと今私どもも、作成しているが、熊本市の中のSDGs をもっと進展をして、啓蒙して、やっぱりキーワードは、SDGs が1番私としてはしっくりくると思っている。

篠原 委員長

SDGs の17項目の中に、ごみ、資源のリサイクルなどがどれだけ入っているかと言うと、全部入らない。こじつけしてもなかなか入らないので、この廃棄物処理の中のSDGs はどういうことかというのは、ぴんとこない。これは、熊本市の環境問題を皆、改善するというならSDGs でいいが。この中で一般ごみのどこを改善するか、新しいものをつくるというには、SDGs だけでは余りにも幅は広過ぎる気がする。だから、それも考慮して考えないといけない。これは今日議論しても、なかなか難しいので今日は皆さんから意見をいただく。

山田 委員

私が感じているのは、ごみ減量。市民の皆様に参加・協力していただくことが、まず大事。そういった中で、「協働」「参画」、これが市民の皆様をお願いするのには1番大事なこと。キーワードの中で、参画協働は、1番心に伝わると思う。

村上 資源循環部長

今御意見いろいろいただき、当然SDGs あたりも、目指す姿の一端には入ってくるかと思う。それを、全部それだけでというのは先ほど委員長がおっしゃられたように、なかなか難しい部分もある。先ほど、山田委員が仰せられた、参画ですとか、そういったものも幾つか私どもで御提案をさせていただき、先ほど西原委員のほうから指標の話も出ましたが、全国

的な統一の指標は、どうしても私ども作らざるを得ない部分もある。ただ、さっきおっしゃられた事業所が増えたら事業ごみが増えるなど、当然のことなので、これは今お示ししてある指標は10年前につくられた指標ということもあって、今回例えば委員さんからこんな指標もいいのではないかと、そういう御意見もいろいろ伺い出来たらと、思っている。事務局として次回どこまで提案できるか今この時点でお話出来ないが、何か皆様にお示しして、次回のたたき台を作らせていただければと思う。

篠原 委員長

部長より、力強い言葉をいただいたので、ぜひ、つくっていただくということで。

宮園 委員

ずっと気になっている空き家問題があり、高齢者の方が増えて、比較的高齢者の方は皆さん物をたくさん持っていて、私も今、どう片づけようかと考えている。空き家になった家の中にあるものは、余りにも大量のごみで、最初は分別しようと思ったが、とても分別できる状態ではなく、お金もごみ捨てだけで100万ほどかかってしまう。遺族が、分別できるような、何かそういった助成金や、何か支援があったらやりやすいと切実に思っている。

岩佐 委員

実に市民レベルの話だが、分別したらビン・カンや、プラスチックごみを入れる袋を買わなければならない。プラごみの場合は入れるので問題ないと思うが、ペットボトルとかビン・カンや、今、レジ袋は皆さん、マイバック持っていくので、レジ袋自体が家になくなっていくという家庭が多いと思う中で、捨てようと思ったときに、皆さん百均に行って買う。ただ、何か本末転倒みたいな部分がある。この前、東京の江戸川区のごみの収集を見ていたら、袋に入れるのではなくて、コンテナに入れてそれをトラック荷台に入れる。その中で、アルミ缶とスチールが間違っていれば、その場で分けていく。一切そのレジ袋を使わないようなごみの出し方をされている。レジ袋を買ってくる罪悪感もありながらもちゃんと袋に入れて出しましょうとなっているから、これはしょうがないと自分の落としどころを決めて買ってくるが、何かその辺でプラスチックごみを減らすとか言いながらも片一方じゃ買わなければならないこの辺の矛盾を、何か解決できるような、案があればいい。

上野 委員

コロナが発生した段階で、収集の人に感染防止、直接触れないということで、多分東京都で収集体制の車両が新たに購入されて、そういうシステムになったのだらうと思う。

岩佐 委員

コロナ以前から、コンテナや大きな網の中に、特にひとり暮らしのマンションとかアパート

にはそういうのが置いてあって、レジ袋を使わずにどんどんその中に入れていくという方法をとられていた。詳しい話を聞いたが、それだとこれはいいと思い、私の心の中の矛盾が非常になくなった。マンションとか、ごみ置場にコンテナが置いてあって、皆さん個人でがらりと。これを持って行ってこれはビン・カンだからこれはペットボトルだからと、コンテナの中に置いていかれる。それをトラックの荷台にひっくり返して、また畳んでそこにあるところに置いていかれるというごみの収集の方法。

上野 委員

熊本市内でも家庭ごみではコンテナ収集をしているところはある。

村上 資源循環部長

今おっしゃったのは、分別収集の中でコンテナ収集という方法をしているところがあり、江戸川区さんも、そういった一つで、熊本市でも、植木地区では、旧植木町のときからのごみの収集の仕方ということで、まだコンテナ収集をやっている。先ほど委員がおっしゃられたプラスチックを減らせと言いつつ、袋を買うと。確かにもうおっしゃるとおり。ただ、今プラスチック問題について、私どもいろいろ検討して、いろんなことをやっているが、まだこれといった一手がないのが現実問題。今、レジ袋削減ということで、ローソンさんと提携をして、レジ袋のかわりに熊本市の有料袋を販売するなど、いろんなことをやっていて今はどちらかという、市民の皆さんに対して、プラスチック問題がこれだけ大きな問題であるという啓発をしている段階。先月、国のほうでもプラスチックに関する法案が、国会を通ったので、今から環境省のほうから、取扱いの指針等が多分出てくる。そういったものを参考にしながら、今回の一般廃棄物処理の計画でも、方向性なり何なりを盛り込めたらと思っている。

篠原 委員長

コンテナ収集を1番やっているところは水俣市。市民がものすごく嫌がるぐらい分別をやっていて、20何種類、分別しなければならない。市民の方は大変だと思うが、リサイクルするには効率のいい方法。それから今、プラスチック関係の話が出たが、市民が1番悩んでいるのはその他プラスチック。発生元が容器包装でないとプラスチックでないという、国の変な法律があり、それを今やっと是正するという。国会でやっと通って、環境省は、変えますとずっと言っていたが、ようやくその時が来た。1番問題になったのがクリーニングのビニール。容器包装ではないから入れてはいけなかったが、本当は有効利用出来る。それなど全部リサイクルできるようになる。同じ素材でも、プラスチック洗面器などは物なので、プラごみに入れてはいけなかったが、それが今度可能になる。素材として見て認めていく、という拡大解釈していくのが新しい法案かと思う。実際法案を見てみないと分からないが、非常に有効になるかと思う。そうすると、市としては啓発をして、考え方を市民に変えてもら

わないといけない。

緒方 浄化対策課長

（資料2「熊本市一般廃棄物処理（生活排水処理）基本計画」の検証について説明）

岩佐 委員

合併浄化槽に移行するための予算は分かるが、下水道管の老朽化がすごく進んでいると思う。その辺の進捗具合や、熊本市の予算などは、大丈夫か。

緒方 浄化対策課長

本来、上下水道局からお答えすべきであり、浄化対策課では詳細な数字は把握してないところ。

篠原 委員長

これを見ると、私は、単独浄化槽と汲み取り便槽は、極力減らしたい。観光都市熊本、あるいは水の都熊本が、本当、台無しになってしまう。財政的な問題で、独居老人、高齢化、あるいはいろんな要因で、なかなか公共下水道につなげない。あるいは合併浄化槽に、変換出来ない。いろんな問題がある今あるとしても、ちゃんと水は処理して流していくと。これは単独浄化槽と、くみ取り便槽というのは大体ペアであり、同じレベルだが、これはどこが問題かというと、厨房と洗濯と風呂の水は全部川に流すということ。皆さん、今の時代で信じられないかもしれませんが、それがまだ残っている。風呂や洗濯の水も全部川に流してしまうということなので、川はきれいにならないし、途中の排水溝も全然きれいにならない。やはり、美しい熊本というイメージからは程遠い内容なので、これは地道にとにかく頑張ってもらえないと私はお願いするしかない。なかなか経済的な問題もあって難しいかもしれないが、これをやり切ると、熊本は本当の近代的な衛生都市になると私は確信しているので、ぜひ、担当者の方頑張ってください。

事務局へお返しする。

閉会

事務局

次の開催は7月末から8月上旬上旬ごろを予定している。日程につきましては後日改めて御連絡を差し上げたい。

以上